久多 文化遺産散策マップ

北山友禅菊の見頃は
7月中旬～8月中旬

一 志古淵神社

久多の信仰の中核をなす神社。祭神の志古淵神は、山の木材を下流に運ぶ筏流しの守り神で、安曇川流域に特徴的に分布しています。伝統的に専門の神職がおらず、住民が交替で務める「神部」などがその役を担っています。境内で奉納される花笠踊が国の文化財に指定されているほか、本殿の建物や、伝来した木製五輪塔・大般若経、新年の行事である山の神・お弓などは、京都市の文化財に指定または登録されており、文化遺産の宝庫のような神社です。

二 大川神社 久多の大杉

祭神は大川大明神。子どもの蛔（回虫）を治してくれると言われます。

境内のスギは、樹齢は定かでないものの、胸高直径二一m、樹高は四〇m近くに及ぶ巨木で、幹の面倒では別のスギを巻き込んでいます。川辺にそびえるさまが印象的で、久多の人々に永年親しまれ、京都市の天然記念物に登録されています。

三 上の宮神社

祭神は久多大明神。下の宮（志古淵神社）に対して、上の宮と呼ばれています。八月二十四日の花笠踊は、最初にここで奉納されます。下の宮で九月九日頃に行われる節句「てんてん」では、かつては上の宮から祭神を運ぶ行列がありました。

四 観音堂

菩門聞ともよばれ、西国三十三所の観音信仰を祀る村堂。八月十日の観音講は、菩門聞の千日参りともいい、大般若経の転読があります。二〇一〇年頃までは、巻子本での転読で、読み終えた経本を手分けして巻き直していましたが、今は折本の経本での転読です。

八月二十四日の夕方には、観音谷横の六体地蔵から観音堂までの山道を、松明で行列する中の町の「ちゃちゃんこ」が行われます。

一 虫送り

鉦と太鼓で囃しながら、害虫・刺し虫といった害虫を追い払う行事。七月第二土曜日の夜、上の町から出発した松明行列は、上の宮神社の前で中の町の人たちに引き継いで志古淵神社の鳥居先まで行きます。そこに宮の町の松明行列が合流し、そこから下の町の松明行列が、下の町の外れの愛宕さんの祠の前まで行きます。

二 川地蔵

八月十四日の夕方、久多の家々では迎え火の川に下りて小さな中洲を作り、そこに川の石を積んで地蔵を六体つくります。翌十五日の朝、米・ナス・ダンゴ・樒・盆花・菓子などを供え、線香を点し、鉦を鳴らしてダンゴ念仏（十三仏念仏）を唱えます。

三 宮の町 ちゃちゃんこ（松上げ）

八月二十三日の晩、龍宝寺の前の松場で行われる、柱松行事。「ちゃちゃんこ」と打ち鳴らされる鉦と太鼓に合わせ、高さ約十五mの燈籠木の先の松をめがけて、上げ松を投げ上げます。「ちゃちゃんこ」は二十三日は宮の町と下の町、二十四日は上の町と中の町、と久多の各町で行われ、特に宮の町で行われるちゃちゃんこは「久多宮の町松上げ」として京都市の無形民俗文化財に登録されています。

京都市登録無形民俗文化財
「久多宮の町松上げ」

四 花笠踊

国指定重要無形民俗文化財「久多の花笠踊」

久多の五か町が上組と下組にわかれ、互いに歌と踊りを奉納する風流の慰霊踊。お盆から各町の花宿に男性が集って精巧な造花を作り、花笠燈籠を拵えます。

八月二十四日の晩、上の宮神社から大川神社を経て志古淵神社に練りこみます。歌は、室町小歌の流れを汲むもので、上組と下組あわせて三〇番もの歌が伝わっていました。

毎年手作りされる繊細で美しい花笠

五 久多城跡

戦国時代に造られた城で、志古淵神社の背後の山頂にあります。標高は約五六〇m で、麓からの高さは一八〇mほどです。おおよそ五〇m四方の小型の城で、二つの郭（平坦面）からなり、石垣・土塁・堀切などの目立った防御施設は見られません。この地域の土豪の城と考えられますが、居館としての城ではなく、いざという時に逃げ込む砦のようなものだったと思われます。

鯖街道

京都と若狭を結ぶ街道を「鯖街道」といい、復路のルートがありました。大原から朽木を通り熊川へ抜けるルートがよく知られますが、八丁平を通って久多の下の町、川合町から針畑に抜け、根来に至るルートも多く使われていました。

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
平成18年度文化芸術振興費補助金（文化遺産総合活用推進事業）による「京都の文化遺産総合活用推進事業」の成果の一部です。